

れ レントゲン薬が薬らぬは風邪薬
 <レントゲンと薬>

妊娠中に最も注意すべき「外敵」といえば、何と言っても放射線と薬でしょう。放射線はある一定以上の線量ではじめて胎児に影響を与える可能性があり、この値を「しきい値」と言います。ヒトでは 100mGy (ミリグレイ) とされますが、X線検査での平均被ばく線量は、胸部単純X線で 0.01mGy、腹部単純X線で 1.4mGy、腹部CTで 8.0mGy です。ですから、もし妊娠と気付かずこれらの検査を受けたとしても、妊娠を中絶する必要はありません。

こんな事例がありました。30代の女性に多量の腹水が認められ、当直医が腹部CT検査を行いました。実は他院で排卵誘発剤を投与されており、妊娠したことで副作用として腹水が出現したのです。それを言わなかったため不要なCT検査が行われたわけで、いくら大丈夫とはいえこういう愚は避けたいものです。一般にX線検査の時点で月経が遅れていれば、一応妊娠判定薬をすべきでしょう。

逆に妊娠中に腸閉塞や急性胆嚢炎、また結核などの重篤な疾患が疑われる場合は、妊娠中だからといってX線検査を躊躇すべきではありません。被ばく線量を最小限にする配慮をするのはもちろんですが。

薬の場合、甲状腺疾患、潰瘍性大腸炎、てんかんなど妊娠前からの疾患の治療薬は妊娠中も継続するのが原則です。例えば胎児への影響を恐れるあまり、てんかんの薬を中断して発作が起こったら、もっと胎児に危険なこととなります。

よく風邪薬をもらいに来る妊婦さんが多いのですが、これは不要です。通常風邪で胎児に影響が出ることはありませんし、風邪薬は原因であるウイルスを殺すのではなく、鼻水、のどの痛み、咳などの諸症状を緩和する対症療法にすぎません。風邪を治すのは、人間に生来備わっている免疫力です。「病を癒すのは神、料金をとるのは医者」(B・フランクリン)と申しますが、風邪の治療にはまさにこの金言が当てはまります。

「医者殿は結句うどんでひっかぶり」という川柳があります。人には薬を煎じて飲ましている医者が、自分の風邪には暖かくして寝ているだけと皮肉ったものですが、これが免疫力を高める最高の治療法だということです。医師専用のインターネット・サイトに、「皆さんはご自分の風邪にどう対応していますか?」という質問があり、いろいろな答えが寄せられていました。「飯食って、風呂入って、明日までに絶対治すという気合」、「蜂蜜+にんにく+すりおろし生姜をお湯に入れて飲む」、「味噌汁チャージ(1リットル)で水分、塩分補給」、「マスク(濡れマスク)をして寝て、のどを保湿する」、「C1000 タケダ一気飲み+赤ワインをレンジでチン」、「水分補給+下着頻回交換」、「寝る前にドライヤーで脊椎、骨盤辺りを数分温める」。このように保温、栄養補給、休息など、抵抗力を高めることに主眼が置かれまさに川柳の通りでした。薬を使う場合も、葛根湯、麻黄湯などの漢方薬が中心でした。

調子が出てきたので風邪に関連した川柳をもうひとつ。「オイ風邪をひくぜと男から折れる」(前田伍健)。喧嘩を詫びる男の優しさがにじむ一句です。



そ 早剥を頭の隅に置いておく
 <胎盤早期剥離>

「胎盤早期剥離」(通称:早剥)とは、妊娠中に胎盤が突然剥がれ、胎盤の後ろに血腫が形成されるもので(図)、産科の異常の中で最も怖いものです。胎盤が機能不全に陥り、胎児は血液供給が絶たれて危険な状態になります。さらに胎盤由来の凝固因子の移行により母体の血液凝固が亢進する結果、凝固因子が消費され母体の出血が止まりにくくなります。

済生会新潟第二病院では、15年間の12,608件の分娩で42件の早剥がありました(他院で発生して搬送されたものは除く)。発生頻度は0.33%、300分娩に1回となります。胎児は14例(33%)が死亡または重症仮死となっています。母体は7例が輸血を要しましたが、幸い全員元気に退院されました。

42例の早剥を分析してみると、初産23例、経産19例と差はなく、年齢分布も一般の妊娠と同じで、高齢者に多いわけでもありません。早剥と関係があるとされる妊娠高血圧症候群を合併していたのは1例のみで、胎児の発育が週数に比して小さいケースも4例のみでした。大多数は順調に経過していた妊婦さんに突然発生しており、予知は困難といえます。

早剥を克服するには、何と言っても「こういう病気もある」ということを知っておくことが一番です。でも300回に1回程度ですので、あまり意識し過ぎても身がもちません。「頭の隅に置いておく」くらいが丁度良いでしょう。

早剥の症状は、血腫による出血と、子宮内圧が上昇するための腹痛と頻繁な子宮の張り、そして胎動が鈍いことの3点に要約できます。下に早剥を経験された方々の最初の症状をご本人の表現通りに示しました、参考になるとと思います。万一こういう症状があったら、すぐに病院を受診してください。

幸い早剥が反復することは稀ですが、42例の早剥中お1人だけ、今回で早剥が2回目という方がいらっしゃいました(写真)。しかし前回の経験からすぐ早剥と察知して受診され、帝王切開で母子とも全く元気でした。早く気づいて受診していただくことがいかに重要かを示す事例です。

<早剥の最初の症状>

『お腹が頻繁に張り始めて、その頃から胎動を感じていない』
 『お腹が休みなく張り、身をかがめなければならなかった』
 『何か流れる感じがしてトイレでいっぱい出血していた』
 『破水かと思ったらすごく出血した。胎動もあまり感じない』
 『腹痛で目覚めた。下痢の痛みと思ったけど徐々に増強した』
 『ハンマーで殴られたように子宮が痛む。下痢、嘔吐もある』

